

コロナで鍛える

松風寺、ならびに大法寺、本唱寺のご信者ご一同には、令和3年の新春を恙なくお迎えされましたこと、心よりお慶び申し上げます。

今年は、高祖日蓮大士のご降誕800年をお迎えする、宗門の5か年の記念ご奉公の4年目で、5年目早々のご降誕記念日、令和4年2月16日までに5か年分の誓願を達成し、晴れやかに800年のお祝いをしようと呼びかけてきた「報恩ご奉公の総仕上げの年」です。

そのためには今、皆で心機一転し、一年のスタートを切らねばなりません。というのも近年の松風寺は、こうした記念のご奉公のたびに中々エンジンがかからず、締切ギリギリまでモタモタしてきたからです。原因は「自分がやらねば」とサッと腰を上げる人が少なく、ゆえに声を掛けて励ます人、自身の行動で皆を引っ張る人が足りないところがあったと感じます。今年はここが改良できて、記念ご奉公の成就と同時に、それぞれの人生が好転することを祈ります。誰かがやるのを待つ姿勢では自身が功德を積めず、結果、記念のご奉公に臨みながら、ご利益が顕れません。ギリギリに叱咤激励されて動くと、あと味の悪さも残ります。そこで新春にあたり、「今年はやるぞ」「お祖師さまに悦んでいただく信者になるぞ」という思いを、しっかりと持っていただければ有難いと、心より祈念する次第です。

ただ、いま世界を席卷する新型コロナウイルスは難敵で、まだしばらくは私たちのご弘通の前に立ちはだかります。お祖師さまは戦乱や自然災害、疫病等の三災七難と呼ばれる障害も自身の力に変え、「法華経の行者を守護する諸天は我を見捨てよ。あらゆる困難も受けようではないか。法華経に身命を懸けるのみである(開目抄)」等と苦難に立ち向かうご信心を教えられましたが、コロナ禍はそれを身に行う「実戦の場」を与えられたようなものですから、不屈の決意が要るのです。

実際、コロナに揺れた一年近くのご奉公の中で、ご信心を生きる指針として真剣に取り組むご信者と、不要不急の付き合いだった人に、ご奉公の仕方も大きく分かれたように感じます。前者は今まで以上に御法にお継りし、皆の功德行の場を守る知恵を出して、時には謂れない非難の言葉を受けながらも逞しくご奉公されています。未曾有の災禍で苦しむ人々の幸いを願って、早期終息のご祈願を真剣にされる方、自宅待機で口唱の時間が増えたので、お教化が出来るようになったという猛者もいます。海外教区のご信者方は、状況が概ね日本よりも厳しかった分、昨年末頃には「コロナのお陰でご信心が成長した」との報告を聞くようにもなりました。

その一方で、コロナが懈怠の理由となる方もいて、せっかくのご信心を鍛えるチャンスに現証の差が出ています。ゼロリスクが正論ならば何でも否定できますが、リスクと闘って生活を維持し、血税を納める人が社会を支えます。真剣にお継りしないのは、危機感にまだ余裕があるのでしょうか。ともかく、コロナ禍の中でご降誕800年のご奉公がさせていただけなのは、ご信心を大きく伸ばし、より妙法の功德を得る信者となるための勝縁です。今年も励みましょう。